

地方独立行政法人大阪市博物館機構 年度計画

令和6年度

令和6年4月1日

地方独立行政法人大阪市博物館機構

(前 文)

地方独立行政法人大阪市博物館機構(以下「本法人」という。)は日本初の博物館群を運営する地方独立行政法人として平成 31 年 4 月に設立された。本法人の使命は大阪市ミュージアムビジョン(平成 28 年 12 月、大阪市策定)に掲げる「都市のコアとしてのミュージアム」を実現し、都市格の向上、大阪の活性化及び発展並びに住民力の向上に貢献することである。そのため本法人は文化・芸術の発展と自主的経営力の発揮を目指して、中長期的な視点に立った事業の計画立案から博物館の一体的経営まで一元的に取り組んできた。

第 1 期中期計画期間の成果と課題や、本法人を取り巻く環境の変化等を踏まえ、6 館一体経営のメリットを活かした法人運営を行うことにより、来館者目線に立った徹底したサービスの実施や各館の活動の更なる充実、国内外への発信に取り組み、本法人全体としての集客力と認知度の向上を図ることにより、日本唯一の特色ある博物館群の形成を目指すべく、第 2 期中期計画期間の初年度にあたる令和 6 年度においては、下記の重要事項に力点を置いて策定・実施する。

記

1 入館者数のコロナ前への V 字回復

アフター・コロナによる人流及びインバウンドの増加、文化観光熱の高まりを追い風に、大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪市立科学館のリニューアル・オープンをエンジンとして、各館の魅力向上等により、コロナ前の令和元年度の入館者を上回ることを目指す。

2 大阪市立美術館及び大阪市立科学館の計画的な整備及び改修

リニューアルを予定している大阪市立美術館及び大阪市立科学館においては計画どおり開館を迎えるよう着実に整備及び改修を進めるとともに、住民の利便性の向上を図るため、ユニバーサルデザイン化を推進する。

また、大阪市立自然史博物館においては、今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な改修実施に向けて検討を進める。

3 大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪市立科学館のリニューアル・オープン

エントランス空間を増築しリニューアルした大阪市立東洋陶磁美術館が中之島における今後のランドマークとなるよう、集客力のある展覧会事業を実施していくとともに、カフェやミュージアムショップ等の充実による館の魅力向上を実現する。

また大阪市立科学館においても、第 1 期中期計画期間に定めた「大阪市立科学館展示改装基本計画」に沿った展示場の整備を着実に進め、リニューアルによる機能向上とともに大阪・関西万博への機運醸成に取り組む。

4 令和7年「大阪博」に向けた取組強化

令和7年に6館が一体となって開催する「大阪博」にむけて、Web等のプロモーション活動を積極的に展開する。また「大阪博」においてWeb上で公開するコンテンツを充実させ、アーカイブ化を進める。

5 来館者目線に立ったサービス向上

多言語化やICTの活用、ホームページやサイン表示を見やすくするなど、来館者の利便性の向上に取り組むとともに、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館において開館時間の延長の試行実施を行う。

6 戦略的な広報の展開及び各館の認知度の向上

Webサイト及びSNS等のアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行うとともに、プレスリリース配信サービスを利用する等、戦略的な広報活動を展開し、各館の認知度の更なる向上を図る。

大阪市立美術館

(前 文)

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とする。

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行う。

また、来館者の満足度が高く住民にとって立ち寄りやすい美術館を目指し、展示改修を確実に進め、令和7年のリニューアル・オープンを迎えることを契機に、改めて、マスコミ等との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致にも注力する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

専門人材の安定的な確保を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

館蔵品、寄託品、及びその関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和4年度実績】著書・論文等20件、研究発表19件、展覧会報告1件

【令和5年度目標】著書・論文等10件、研究発表10件、展覧会報告1件

【令和6年度目標】作品・資料等実地調査20件、著書・論文等10件、研究発表等10件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

東京文化財研究所、文化財活用センター及び国宝修理装演師連盟等が開催する研修会への参加や、所蔵作品の修復監督の機会を通じて、美術作品の保存や修理に関する知見の獲得に務める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

大規模改修工事を機に展示環境の向上実現を図る。展示ケース、照明器具、演示具、免振装置などの製品仕様について、他館等から積極的に情報収集する。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

全国の博物館・美術館が参画する各種研究会、マスコミ各社の文化事業部などとの情報交換をもとに、大都市圏での展覧会の開催動向や広報戦略について調査・研究を行う。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集に努める。

【令和4年度実績】購入0件 寄贈2件

寄託 受入4件 返戻22件

イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録等を収集する。

【令和4年度実績】購入 図書・雑誌 119 件

【令和6年度目標】館蔵品のアーカイブ化に向け、基礎となるデータベースの作成と公開（主要作品 250 件程度）を行う。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

改修後のコレクション展等での効果的な活用を目指し、館蔵品の修復を計画的に進める。

【令和6年度目標】国指定文化財 2 件を含む 3 件

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

改修工事の間、館蔵品、寄託品を保管している地下ギャラリー、外部倉庫において、総合的虫菌害の管理（IPM）のための害虫トラップ、空気環境の調査・分析、清掃、コンサルティングを定期的実施する。また防犯・防災システムを定期的点検する。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

館蔵品のアーカイブ化に向け、基礎となるデータベースの作成と公開を行う。

【令和5年度目標】主要作品の作品基本情報集約

【令和6年度目標】主要作品 250 件のデータベース作成・公開

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

観覧者の満足度が高く住民にとって立ち寄りやすい美術館を目指し、展示設備を一新し、バリアフリー動線や無料ゾーンを設置する。また耐震補強・内装工事により安全性・快適性を向上させる。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

エスカレーターの設置や、エレベーターの増設など、高齢者、障がい者等に配慮し、バリアフリー化を推進する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を始める。

「大阪博」の中心的コンテンツとなるWeb 展覧会「大阪の宝 大阪の力」（仮称）のインデックスから、「市民の力」・「都市の力」・「芸術の力」をアピールできる作品選定を中心に、コレクション展の魅力を向上させる展示企画の準備を行う。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。

様々なテーマにより、変化に富むコレクション展示を開催するとともに、時宜やテーマに即し「特集展示」を開催する。

【令和4・5年度実績】改修工事の実施に伴い開催なし。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

東アジア等を中心とするコレクションの特性を活かすとともに、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品に注目した自主企画による特別展を開催する。また国内外の博物館・美術館や社寺などの所蔵者や研究者との連携を図り、新聞社・テレビ局など他機関と協働した特別展を開催し、日本と世界の美に触れる機会を提供する。

【令和4年度実績】

「華風到来 チャイニーズアートセレクション」11,708人

【令和6年度目標】

館蔵品のみ全館展示する改修お披露目展の開催

「リニューアル・オープン記念展」(仮称)

開催日数26日 目標入館者数20,000人

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

夜間運営を行う予定のカフェの入店状況より、開館時間延長の来館者ニーズや運営上の影響を分析する。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

「大阪博」や学芸員による講座など、機構一体の連携事業に参加する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

改修工事竣工後、速やかに新たな作品管理体制を整備し、令和7年度に作品貸借の再開できるよう準備を進める。大阪中之島美術館や京都国立博物館で保全している館蔵品・寄託品については、両館等で開催される関係展覧会での有効活用を図る。また国指定文化財、館蔵品・寄託品の一部について、大阪歴史博物館において保全を図る。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

リニューアル・オープン後(令和7年度以降)のユニークメニュー実施に向けて計画を策定する。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

東アジア各地域の美術史、またミュージアム経営戦略などに関する学芸員の活動成果について、国際的に視野を拡大して情報発信を図る。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

海外館の書籍出版等による画像掲載依頼への協力、各種刊行物の交換などを通じて、学芸員の学術交流を深めるとともに、在外作品に関する情報蓄積を継続的に行う。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)

中国・上海博物館の学芸員との連携・共同により、上海博物館との交換展の開催準備を進める。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

- ア リニューアル等の情報をホームページにて周知する。
- イ ホームページで作品リストを公開し館蔵品を広く周知する。
- ウ ホームページで「大阪博」と連携をする。
- エ リニューアル情報、館蔵品等の情報をSNSで周知する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

令和7年度に実施予定の来館者に対する満足度アンケートの内容を確定する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

リニューアル・オープン後の館の魅力向上を全国的にアピールするため、テレビ、新聞及び美術雑誌等に向けた情報発信（出演・寄稿等）の頻度を高める。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

大阪観光局と連携した広報展開を行う。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

【令和4年度実績】

「大阪市立美術館紀要」の発行（ホームページ上でも公開）

「華風到来 チャイニーズアートコレクション」開催に伴う「VRミュージアム」作製（ホームページ上で公開）

Twitter ツイート数 173 回

Instagram 投稿数 37 回

【令和6年度目標】

「大阪市立美術館紀要」、広報誌「美をつくし」（1回）を発行（ホームページ上でも公開）する。X、Instagram（各2回）でリニューアル・オープンに関する情報発信を行う。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲） (27)

- ア リニューアル等の情報をホームページにて周知する。
- イ ホームページで作品リストを公開し館蔵品を広く周知する。
- ウ ホームページで「大阪博」と連携をする。
- エ リニューアル情報、館蔵品等の情報をSNSで周知する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲） (28)

【令和4・5年度実績】 改修工事の実施に伴い開催なし。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

新聞社やテレビ局との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致に注力する。

また、大阪観光局等との連携を図り、効率的かつ効果的に館の市場浸透を図り、主催する展覧会の告知を行う。

【令和4年度実績】

「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」192,277人

【令和5年度実績】

改修工事の実施に伴い開催なし。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

夜間運営を行う予定のカフェの入店状況より、開館時間延長の来館者ニーズや運営上の影響を分析する。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

改修工事によるバリアフリーの向上実現と、今後のインバウンド需要に向けた展示室内の各種情報の多言語化推進を図る。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

令和5年度策定のサイン計画に基づき、館内サインを作成し配置する。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア 慶沢園との連携を実施する。

イ 周辺エリアの事業者等と連携を協議する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

ア ミュージアムショップの委託事業者を決定しオープンする。

イ 館内カフェの委託事業者を決定しオープンする。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

リニューアル・オープンに向け、オリジナルグッズを販売できるよう、ミュージアムショップ委託事業者と連携し商品開発を行う。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

各種出版や商品開発のための画像データを提供する。

【令和4年度実績】63件

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ワークショップ等のこども向け事業の計画構想をまとめる。また令和7年度から開始するコレクション展で使用するこども向けワークシートを作成する。

【令和4年度実績】

天王寺ジュニアクラブ 実施件数1件、参加人数40人

文化財修理ワークショップ 実施件数1件、参加人数14人

アートプログラミングワークショップ 実施件数1件、参加人数13人

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進（39）

各種ボランティア活動、NPO等の館活動への参画等をサポートする人員の配置について館内で協議する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

カフェ及びミュージアムショップの委託事業者から美術館運営における意見を徴する。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)

令和7年度からの施設貸し出しに向けての準備を進める。

大阪市立自然史博物館

(前 文)

大阪の「自然の情報拠点」として大阪市立自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、自然を見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指す。

人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える。

今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な施設改修実施に向けて検討を進めるとともに、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的人材の安定的確保及び育成 (1)

ア 必要な分野の学芸員を安定的に配置し、またライフプランに応じ、退職時などには業務継続に必要な措置を速やかに確保する。

イ スキルアップのため、関連催事(関連分野の学術集会、博物館学関連行事)をオンライン・オフラインで誘致・実施する。

ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修へ参加する。積極的にオンライン会議などを活用する。

エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。

2) 博物館等資料に関する調査研究 (2)

ア 学芸員による館蔵資料を活用した研究及び野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。

イ 外来研究員や外部研究者による館蔵品を用いた研究を支援する。

ウ 科研費や民間助成金を積極的に活用し、必要な調査を計画的に行い、機会を捉えて積極的に成果発表を行う。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究 (3)

ア 大規模改修をにらみ、必要な収蔵体制や条件などについて大規模改修検討会議、学芸会議等で検討を進め、具体的な諸室の条件などを明確化、基本計画や設計に反映する。

イ 文化財防災ネットワークと連携し、大規模災害に備えるとともに、調査や研究・研修などで貢献する。

ウ 国際自然史標本保存学会など、自然史分野の保存科学関連の情報を積極的に収集し、またそれを本法人内や国内に還元する。

エ 「自然史博物館研究報告」などで当該分野の研究報告を受け入れる。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

- ア 大規模改修を目指し、新たな展示手法や包摂的な展示手法の積極的な情報収集、開発に努める。
- イ 科学技術振興財団R I S T E X事業と連携してSDG sに関する展示の開発を続ける。
- ウ 西日本自然史系博物館ネットワークや全国科学博物館研究協議会、展示学会などと連携した展示手法に関する研究会・学会に参加し、情報収集及び当館の取組を発表し、議論する。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

- ア 科研費共同研究などの機会を捉えて、博物館の来館者の期待、経営手法及び寄附開発などについての研究を進める。
- イ モバイル端末などのビッグデータ活用を行い、来館者属性の分析を進める。
- ウ 博物館を取り巻く様々な属性を持つ（潜在的）利用者からのヒアリングの機会を設け、インクルーシブな博物館づくりを目指す。
- エ 主要な利用者の代表である友の会からの声を運営に活かす。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

- ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。
- イ 収蔵品の増加ペース及び残収蔵スペースを精査し、大規模改修をにらみつつ、将来にわたる確実な収蔵のために必要な計画を立てる。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

- ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進め、現状の状態を確実に記録し、将来の保全に役立てる。
- イ 大山文庫・岸川蔵書などの現状の記録と修復手法について標本委員会等で検討・協議を進める。

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

- ア 収蔵庫内での虫菌害の監視及び温湿度管理を継続的に行う。
- イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。
- ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。
- エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。
- オ 西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワークなどとの連携による災害対策について標本委員会等で検討・協議を進める。
- カ 大規模改修により館屋の耐震性能の向上をはかり、人と物の安全を図る。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

- ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進めることとし、植物から順に記録を行う。
- イ 大阪博の館蔵品データベースを活用したジャパンサーチへのデータ提供に向けたデジタル・アーカイブ化等について諸条件を確認し、可能なものから各種補助金を活用して実現を図る。
- ウ 研究資料のJAIRO Cloudによる公開を引き続き実施するとともに、未公開の資料についても順次公開を図る。更なる公開流通の方途についても検討、開発を進める。
- エ 自然史分野のAI活用に関しての情報収集を進める。

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

予算獲得及び実施に向けた検討を進め、関係各所との対話の機会を確保し、着実に実施を進める。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

- ア 大規模改修の中でのハードウェア的な改善を目指すとともに、運用による改善が可能な項目についての検討を進める。
- イ 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を進める。

- ア デジタル資料の充実を生かしたコンテンツ展開を大阪博と連動して行う。
- イ 当館と接点を持つ万博での展示や活動に関する情報収集を進める。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示などで、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信などを含め展示品の背景情報についてもデジタルメディアを活用して伝えていく。

- ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。

【令和4年度実績】

常設展示入場者数 247,000人

ミニ展示3回、テーマ展示5回

- イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。
- ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

学芸員の研究や住民との協働研究に根ざし、大阪の自然の新たな一面や資料の新たな価値を紹介する特別展を開催する。展示だけでなくオンライン配信やSNSの展開と合わせ、その価値を広く住民と共有できるものとする。

ア 昨年度に引き続き「自然史のイラストレーション展」を開催するとともに、年度末には「貝展（仮称）」を開催する。これらの特別展で学芸員の研究に根ざした展示及び解説を行う。

【令和4年度実績】

「日本の鳥の巣と卵 427」16,809人

「大阪アンダーグラウンドRETURNS」7,140人

イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。

イ 観察会などを伴った特別な付加価値を持った夜間開館について検討と試行を行う。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 連続講座や大阪博事業に積極的に関与する。

イ 共同した外部資金獲得の可能性について積極的に情報収集し、公開の場であるべき姿の議論を進める。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の研究利用目的での貸出・展示目的での貸出を積極的に進める。

イ 外来研究員をはじめとする外部の博物館資料の利用者受け入れを積極的に行う。

ウ 特別展示などの外部博物館からの資料の借り入れを必要に応じて適切に行うとともに、博物館相互の信頼を維持向上させる。

エ 文化遺産防災ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワークなどと連携した防災及び相互レスキューの体制を維持向上させる。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ア 学会などの催事開催を積極的に誘致する

イ エコカーの展示など企業活動と連携した催事の誘致についてMICE事業者などと情報共有を進め、実施に繋げる。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

ア 9月のSPNHIC沖縄大会に積極的に参加・発表する。

イ 8月の国際昆虫学会京都大会で発表する。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

ア 9月のSPNHIC沖縄大会に積極的に参加・発表する。（再掲）

イ 8月の国際昆虫学会京都大会で発表する。（再掲）

- 3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)
海外研究者との資料の閲覧・貸出について、デジタル・実物両面に対応する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

- 1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

大阪博と連携してプロモーション活動を行う。

- 2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア モバイル端末によるビッグデータの活用等を広報委員会で検討し、データ分析に基づく広報展開を行う。

イ SNSなどのアクセス情報を利用する。

ウ 大規模改修に伴う調査の解析などを行う。

- 3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

ア 適切なプレスリリースにより専門的な情報の提供を着実にを行う。

イ 平常からSNSなどを通じた平易な情報発信を行う。

- 4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪市立中央図書館及び各区の図書館などでの巡回展示などを実施する。

- 5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開を行う。

イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。

ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。

エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。

【令和4年度実績】

ホームページ 発信 115 件

Twitter ツイート数 304 件

Facebook 投稿 205 件

YouTube 総再生時間 10786.9 時間

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

- 1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

大阪博と連携してプロモーション展開を行う。

- 2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え(再掲) (28)

ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。

【令和4年度実績】

常設展示入場者数 247,000 人

ミニ展示 3 回、テーマ展示 5 回

イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また適宜アンケートなどによる評価を強化する。

ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

マスメディア各社と連携して魅力ある特別展の誘致を行うとともに、必要に応じ、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。

また、当館企画による巡回展の企画を行う。

読売新聞大阪本社及び関西テレビと共催で7月から9月に「ネコ展」を開催する。

【令和4年度実績】

「植物 地球を支える仲間たち」6,120人

「大地のハンター展」55,516人

「毒」28,257人（令和4年度のみ）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲） (30)

ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。

イ 観察会などを伴った特別な付加価値を持った夜間開館について、検討と試行を行う。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。

イ 常設展示場内における外国語表記について二次元コードを利用した解説など多様な手法について展示委員会にて他館事例などの情報収集を進め、試行を行う。

ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証とスタッフによる案内の改善を行う。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

ア 長居植物園・長居パークセンターと協調して進める。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

ア 特別展などの機会を捉えた周辺飲食店との連携を行う。

イ セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムでの試合開催時の特別展PRなどを推進する。

ウ 大阪自然史センターと連携したショッピングモールなどでのPR展開を特別展などの催事に合わせて企画・推進する。

エ 長居植物園と連携した50周年記念事業を実施する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。

イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供できるように努める。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

- ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、博物館及びショップの魅力向上に努める。
- イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上に努める。
- ウ 民間出版社と協力した書籍の作成を行う。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

- ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行う。
- イ 能勢町の保護上重要な生物に関して、大阪府の生物多様性地域戦略検討委員等として協力を行う。
- ウ 兼業等を含め、民間企業等への講師派遣を行う。
- エ 長居公園みどり自然部会への協力を行う。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

- ア 子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し、配布する。
- イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。
- ウ 「教員のための博物館の日」を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。
- エ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用方法の周知に努める。
- オ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。
- カ 職場体験を受け入れる。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

- ア 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。
- イ 博物館実習生・インターン・専門研究のための利用など多くの学生を受け入れ支援する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

- ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう引き続き注力する。
- イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。
- ウ 関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施する。
- エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

- ア ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を普及委員会等で検討する。具体的には、博物館と博物館周辺での活動活性化のための資金獲得のあり方について、公開での議論を受けて制度検討をする。

イ 友の会の総会及び評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。

ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)

ア 住民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。

イ 博物館と連携して活動する住民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。

ウ 関連学会と連携した住民の発表機会を誘致する。

エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。

大阪市立東洋陶磁美術館

(前 文)

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指す。

東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

エントランス空間を増築しリニューアルした大阪市立東洋陶磁美術館が中之島のランドマークとなるよう、集客力のある展覧会事業を立案・運営・実施してくとともに、展示環境はもとよりカフェやミュージアムショップなどの充実による館の魅力向上を実現する。また、リニューアルした施設を活用したユニークベンチャー等の取組を積極的に進める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 (1)

専門人材の安定的確保を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究 (2)

館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究 (3)

館蔵品の保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究 (4)

館蔵品の保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価 (5)

入館者に対するアンケート調査を実施し、効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討し、その方向性について協議をする。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供 (6)

ア 芸術的・資料的価値の高い作品の購入及び寄贈による新たな館蔵品の獲得を目指す。

【令和4年度実績】

寄贈件数 8 件 (作品数 27 件 30 点)

評価額計 10,021 万円

イ 研究図書、雑誌等の収集に努める。

【令和4年度実績】

購入図書資料 197 点 (図書 17 点、雑誌 34 誌 186 点)

寄贈図書資料 305 点 (図書 253 点、雑誌 11 誌 52 点)

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

館蔵品の中から優先順位を設けながら、館蔵品の修復を計画的に行う。

【令和6年度目標】

韓国陶磁5件5点

【令和4年度実績】

韓国陶磁計7件7点

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア 収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努める。

イ 保管スペース確保のため、収蔵庫スペースの拡充についての方策を模索し、方策について協議する。

【令和6年度目標】

収蔵庫・展示室の温湿度測定（通年）

定期清掃12回（月1回）

I PM調査

【令和4年度実績】

虫菌害の対策として定期清掃（収蔵庫等）を12回行った。

展示室とバックヤードにモニタリングトラップを設置し、展示室の環境を把握した。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

ア 継続的に館蔵品を撮影し、アーカイブ化を図ることでオープンデータ化を積極的に進める。

イ ジャパンサーチと連携して、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図る。

【令和4年度実績】撮影件数173件、オープンデータ化件数20件

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

貴重な作品を安全に管理するための収蔵スペースの整備し、貴重な作品を安全かつ最適な環境で展示・保管するための展示室・収蔵庫の温湿度管理環境の改善の実施を目指す。

ア 作品の安全な展示のため、展示室の温湿度管理環境の改善や快適な鑑賞環境の改善のため老朽化したガラスの高透過化などの改修に向け準備を進める。

イ 作品の安全な保管のため、収蔵庫スペースの拡充と温湿度管理など基本環境の改善に向けての改修に向け準備を進める。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

エントランス棟に新設した多目的トイレや救護・授乳室を活用し、来館者の利便性の向上に寄与する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 (12)

2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等を行うべく、優れた館蔵品を十分に活用した展示の計画を策定する。

2) 所蔵するコレクションの魅力伝える常設展示における展示替え (13)

国宝や重要文化財を含む世界的なレベルの館蔵品の魅力を最大化した独自の展示方法と、コレクション展示にテーマを設けるなど、名品を様々な切り口から鑑賞できるようにする。

ア 専用展示ケースの導入による国宝の新たな見せ方に努める。

【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし

【令和6年度目標】コレクション展入場者 95,880人

イ コレクション展示のサインやキャプションをリニューアルする。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

学芸員の調査研究の成果をもとに、コレクションを最大限活用しながら、国内外の美術館・博物館などと連携しつつ、当館の特徴を活かした魅力ある独自企画の特別展を開催する。

ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。

【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし

【令和6年度目標】

・大阪市立東洋陶磁美術館リニューアル・オープン記念特別展「シン・東洋陶磁-MOCOコレクション」41,180人

・友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流-上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」54,700人

イ 海外の美術館・博物館と連携して、当館コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。

【令和6年度目標】

友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流-上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」54,700人（再掲）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

令和6年度の光の饗宴開催期間中に、夜間開館の試行実施を行い、令和7年度の本格実施の準備を進める。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 各館と連携して「大阪博」を開催し、コレクションの魅力を多角的にPRしていく。

イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に大阪中之島美術館や大阪市立科学館とともに参加し、連携事業や共同広報を推進する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

改修により増築したエントランス棟を積極的に活用し、ユニークベニユーを計画・実行する

とともに、施設を有効利用した幅広い事業展開を模索し実現に向けて協議する。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議やシンポジウム等において調査研究等の活動成果の発表を行う。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

相互協力提携のある台北・国立故宫博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを展開する。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。(再掲)

イ 海外の博物館と協働して、優れた作品を借用して展覧会を共催する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

各館と連携して「大阪博」を開催し、各種プロモーション活動やコンテンツ作成等の準備を進める。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 最適な時期を踏まえ、ターゲティングを活用した戦略的なWeb広報を展開する。

イ アクセス解析を通して広報効果を把握し、効果的な広報を展開する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信する。

イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 公式ウェブサイト、YouTube、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。

イ 調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表する。

【令和4年度実績】Instagram投稿数50回(フォロワー5,532人)

【令和6年度目標】Instagram投稿数50回

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

各館と連携して「大阪博」を開催し、各種プロモーション活動やコンテンツ作成の準備を進める。

2) 所蔵するコレクションの魅力伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア 専用展示ケースの導入による国宝の新たな見せ方に努める。

【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし

【令和6年度目標】コレクション展入場者 95,880 人

イ コレクション展示のサインやキャプションをリニューアルする。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

マスメディアとの連携による特別展を企画・開催し、SNSを中心としたWeb広報を推進するとともに、地域の様々な施設・機関との連携による共同広報の充実やチケット販売の促進を図る。

【令和4年度実績】改修工事に伴い、開催なし

【令和6年度目標】

・大阪市立東洋陶磁美術館リニューアル・オープン記念特別展「シン・東洋陶磁-MOCO コレクション」41,180 人（再掲）

・友好都市協定 50 周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流-上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」合計 54,700 人（再掲）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

令和6年度の光の饗宴開催期間中に、夜間開館の試行実施を行い、令和7年度の本格実施の準備を進める。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア 主要館蔵品 61 件の多言語対応の無料解説アプリ（「ポケット学芸員」）の提供とその充実を図る。

イ 館内パンフレットに二次元コードを利用した多言語対応ソリューションを取り入れ、スマートフォン等で11ヶ国語の翻訳表示を可能にする等、多様な来館者へ快適な鑑賞環境を提供する。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

キャラクターや数字・色などを生かした新たなサイン表示により、来館者に分かりやすい案内誘導に努める。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

民間事業者と連携し、カフェ、ミュージアムショップにおいて館の魅力を来館者に伝えることができるメニュー開発やグッズ開発、制作による魅力向上やサービスの充実を図る。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を進める。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

民間事業者との協働やオープンデータ化した館蔵品画像による出版や商品開発を促進する。

【令和4年度実績】写真貸出12件(国内9件、国外3件)

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

ワークショップの実施に向けての準備を進める。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を行う。

イ 研修生や博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを推進する。

【令和4年度実績】

- ・見学実習 改修工事に伴い、実施なし
- ・インターン1名を受け入れ(継続)

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

新たなボランティア制度によるガイド等活動の実施を進める。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取し活動に活かす。

大阪市立科学館

(前 文)

館の使命として、「科学を楽しむ文化の振興」を図る。主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行う。

第1期中期計画期間に定めた「大阪市立科学館展示改装基本計画」に沿った展示場の整備を着実に進め、新設する企画フロアを活用したボランティア及び博物館・学校その他多様な主体との連携による企画展示等の充実を図る。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 (1)

ア 科学館活動に関連する各種学会、研究会、研修会等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。

イ プラネタリウム、サイエンスショー及び企画展の制作時と制作後の組織内評価並びに来館者アンケートを通して学芸員の事業企画に係る資質向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究 (2)

ア 館蔵資料等関連資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進める。

イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究 (3)

日本博物館協会をはじめとした関連団体や文化庁の研究会・研修会等に参加し、資料保存に関する新しい情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究 (4)

ア 全国科学博物館協議会、全国理工系学芸員会議など関連団体の展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。

イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価 (5)

ア 展示・プラネタリウム・サイエンスショーなど各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査し、館の運営、事業内容の改善を行う。

イ 日本博物館協会、全国指定都市科学館連絡会をはじめとした関係団体の研究会等に参加し、運営に関する情報を収集する。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供 (6)

ア 物理学、化学、天文学、気象学、科学史、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。

【令和4年度実績】寄贈1件

イ 科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。

ウ 大阪市立科学館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行う。

【令和4年度実績】有償提供7件

エ 継続的に図書、研究図書の収集を行う

【令和4年度実績】研究用単行本27冊、雑誌8誌

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 (7)

ア カールツアイスⅡ型プラネタリウムの移設展示に伴い分解清掃・現状カルテを作成する。

イ 学天則の移設展示に伴い分解清掃・電気機器更新等修復を実施する。

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 (8)

展示改装に伴い防犯カメラ、機械警備装置の再配置・充実を図る。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用 (9)

館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。

【令和4年度実績】撮影件数2件、アーカイブ化2件

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修 (10)

来館者サービス機能向上のため、設備等の更新を行う。

さらに利用者目線に立ったオンラインチケットシステムの充実を進める。

ア エスカレーター(2～5号)を更新する。

イ 利用者目線に立ったオンラインチケットシステムを導入する。

ウ ミュージアムショップを移設・拡充する。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修 (11)

ア 授乳専用ブースを新設する。

イ 来館者の多様性を考慮した館内サインを設置する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 (12)

「大阪の宝」で選定した資料をはじめ、大阪市立科学館所蔵の資料の情報をオンライン等で積極的に発信する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え (13)

物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を再現する体験型展示を行う。

また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。

ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。

【令和4年度実績】常設展示入場者 288,920人

【令和6年度目標】常設展示入場者 283,869人(4-7月休館)

イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や、体験型展示を設置する。

ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3~4か月に1本実施する。

エ 企画展示コーナーを新設し、企画展などで所蔵コレクションを公開する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、年4回テーマを変え公開する。

また、館蔵品や調査研究成果を活用した企画展(年3回程度)や、博物館・学校、その他団体等、地域の多様な主体との連携による展示などを実施する。

ア プラネタリウムの新プログラムを3~4か月に1本制作・投影するほか、適宜「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。

【令和4年度実績】プラネタリウム入場者数 287,223人

【令和6年度目標】プラネタリウム入場者数 222,039人(4-7月休館)

イ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするプログラムを開発する。

ウ 企画展「日本の科学館は大阪から(仮)」、「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施し、住民の科学と2025年大阪・関西万博への興味を喚起する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

リニューアル・オープン直後の土日祝日とお盆時期については、展示場のオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

大阪中之島美術館との連携による分野横断的な普及事業を実施する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。

ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。

エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

オ 全国理工系学芸員会議や日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等

と情報共有や協働を行う。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

プラネタリウムを活用した「スペシャルナイト」等のイベントを実施することにより、需要創出を図る。

【令和4年度実績】プラネタリウムスペシャルナイト開催2件。参加者数525名。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

日本プラネタリウム協議会や全国理工系学芸員展示研究大会をはじめとした各種団体での大会・研究発表会等において、実践報告をはじめとした活動成果の発表・公演を行う。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

オーストラリア国立科学技術センター（クエスタコン）との交流を行い、ネットワークの充実を行う。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。

ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。

エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

オ 全国理工系学芸員会議や日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有と協働を行う。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 来館者アンケートを実施して、事業に関するニーズを把握し、SNSやホームページ、チラシ等の広報媒体を有効に用いた広報活動を行う。

イ 各種活動を広く紹介する広報誌「科学館だより」、月刊誌「うちゅう」を発行し、市内施設や友の会会員など効果的な配布を行う。

【令和4年度実績】「科学館だより」4号、「うちゅう」12冊発行

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪市立東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

イ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。

イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。

【令和4年度実績】12冊発行

ウ 3ヶ月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。

エ 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。

オ SNSツールを利用した情報発信を行う。

【令和4年度実績】

X 発信数「大阪市立科学館広報」286件、「学芸員@大阪市立科学館」152件、「館長の散歩@科学館」35件、Instagram「大阪市立科学館」266件

カ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。

キ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え(再掲) (28)

ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。

【令和4年度実績】常設展示入場者 288,920人

【令和6年度目標】常設展示入場者 283,869人(4-7月休館)

イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や、体験型展示を設置する。

ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3~4ヶ月に1本実施する。

エ 企画展示コーナーを新設し、企画展などで所蔵コレクションを公開する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

近隣の大阪中之島美術館、国立国際美術館、クリエイティブアイランド中之島の参加施設などと連携した活動を行い、新規来館者の増加に努める。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長(再掲) (30)

リニューアル・オープン直後の土日祝日とお盆時期については、展示場のオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

ア Osaka Free Wi-Fi サービスを提供し、来館者の利用に供する。

- イ 施設案内サイン等(非常時の案内を含む)の多言語表記・ピクトの活用を統一的に行う。
- ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。
- エ ホームページ、リーフレットの英語・中国語(簡体字)・韓国語対応を進める。
- オ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化に取り組む。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

- ア 施設案内等に日英を中心とした多言語表記を導入するとともに、ピクトグラムを導入し、来館者にわかりやすい案内を行う。
- イ 館内サインの配置等の見直しを実施する。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

- ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。
- イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。
- ウ 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携に協力、実施する。
- エ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリア B1、中之島ウエスト・エリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。
- オ 国立国際美術館、大阪大学中之島センター内カフェとの連携を実施する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

- ア リニューアルに伴いミュージアムショップの面積を拡大し、また民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。
- イ 休憩スペースを兼ねたカフェスペースを新設し、館内での滞在時間をより快適に過ごせるようにする。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

民間事業者との連携で、ミュージアムショップの商品の充実を図る。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

館蔵資料や展示物の画像データの提供、専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

【令和4年度実績】民間事業者への画像有償提供6件

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

- ア 学習指導要領に対応した新展示場ワークシートを試作する。
- イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、観覧者に天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を配布する。

【令和4年度実績】学習投影実施 234 回

ウ 小中学生を対象としたワークショップを常設展示場にて実施する。

エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。

【令和4年度実績】ファミリータイム投影 450 回

オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。

カ 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。

【令和4年度実績】研修4件のべ6日実施。80名参加

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。

【令和4年度実績】実習受講者5名

イ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

ウ 市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所事業を行う。

【令和4年度実績】コロキウム11回実施、参加者158名

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

ア 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行う。

イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施するほか、ジュニア科学クラブをはじめとした大阪市立科学館の各種活動を支援する。

ウ デモンストレーターによるアウトリーチ活動 (SCIENCE de DOYA) を推進する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、展示や普及活動に関して意見聴衆する。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)

ア サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動や、友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展等の活動を支援する。

イ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。

ウ 科学に関する冊子を制作するグループと住民が交流するフェスタを開催する。

大阪歴史博物館

(前 文)

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指す。

都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築作業を進めるとともに、新たな民間企業とのパートナーシップ導入を基軸として更なる魅力的な活動を実現し、幅広い来館者・利用者の獲得と満足度の向上を実現する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的人材の安定的確保及び育成 (1)

ア 館の活動を支える人材を確保し、適切な職員配置、業務分担などを模索する。

イ 職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。

【令和4年度実績】研修5回、参加者6人

【令和6年度目標】研修5回、参加者5人

2) 博物館等資料に関する調査研究 (2)

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和4年度実績】共同研究事業3本、基礎研究事業1本
著書・論文数51件、研究発表68件

【令和6年度目標】共同研究事業2本、基礎研究事業1本
著書・論文数40件、研究発表50件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究 (3)

博物館資料の保管にかかわる情報を研修や研究会などを通じて収集し、研究を行いその成果を活かす。

【令和4年度実績】

ケース内空気環境改善のための調査と空気清浄機の導入
新規ケース仕様の検討と確定

【令和6年度目標】

未改修の展示ケースに空気清浄機を適切に使用し、展示環境改善に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究 (4)

博物館資料の展示にかかわる情報について研究会等を通じて収集するとともに、その研究で得た成果を活かす。

【令和4年度実績】新規購入ケースのLED照明の仕様の検討と確定

【令和6年度計画】LED照明への交換計画の策定

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

ア 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。

イ 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象としたアンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

【令和4年度実績】特別展・特別企画展2回、特集展示4回

【令和6年度目標】来館者アンケート、特別展・特別企画展4回、特集展示6回

ウ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、以後の企画立案に活用する。

【令和4年度実績】展覧会事後分析4回

【令和6年度目標】展覧会事後分析4回

エ 事務局と連携し、事務局において収集したマーケティング・リサーチ結果やビッグデータを活用し、戦略的な広報を展開する。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和4年度実績】購入0件0点、寄贈746件1,217点

イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。

【令和4年度実績】寄託48件65点（丹波篠山市教委、一時預かりから寄託に切替）

ウ 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和4年度実績】館蔵資料撮影70カット、マイクロフィルム撮影0カット

エ 住民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書収集を行い、年度内にデータベース化を完了する。

【令和4年度実績】図書2,446点

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

ア 館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復を行う。

【令和4年度実績】修復0件

【令和6年度目標】修復2件

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。

ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

【令和4年度実績】燻蒸庫燻蒸3回、収蔵庫内生物調査1回

【令和6年度目標】燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。

【令和4年度実績】 アーカイブ化 70 カット

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

展示室における適正な展示環境の維持や、照明のLED化に取り組む。また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築を館内部で協議を進める。

ア 老朽化した展示ケースや展示機器、展示照明の状況を把握し、修理や備品類新調など適宜対応する。

イ 展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。

ウ 改修した特別展示室の展示ケースの空気環境を維持し、未改修ケースについても可能な限り展示環境の改善を図る。

エ 2025年大阪・関西万博に向けて展示室のネットワーク環境の活用を進める。

オ 公開承認施設として認可されるよう申請を目指す。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

ア 前年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき館内の充実を図る。

イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭においてユニバーサルデザイン対応を進める。

ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を情報収集し館内で協議を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

2025年大阪・関西万博における「大阪博」の準備としてコンテンツを充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進める。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。これまで以上に展示更新を行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。

ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。

【令和4年度実績】 常設展示入場者 131,844 人

【令和6年度目標】常設展示入場者 300,000 人

イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。

【令和4年度実績】 テーマ展示2回、展示更新38回

【令和6年度目標】 テーマ展示2回以上、展示更新30回以上

ウ 館蔵資料及び市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。

- ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後10年記念展 5/8～7/8
- ・新収品お披露目展 7/10～9/2
- ・新発見! なにわの考古学2024 9/4～10/28
- ・心齋橋ときもの一小丸260年のあゆみー 10/30～12/23
- ・稲作民俗事始めー米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17
- ・泉布観ー大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14

エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

オ 個人端末による音声ガイド(多言語)を導入・稼働させ、展示の理解度を深める。

カ ハンズオン展示を再実施する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化(14)

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催する。

ア 自主企画による特別展を1本実施する。

- ・「難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮ー古代日本のターニングポイントー」目標来館者数11,210人

【令和4年度実績】

「～浮世絵師たちが描く～絶景!滑稽!なにわ百景!」14,607人

イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を2本実施する。

- ・「おおさか街あるきーキタ・ミナミー」(自主企画)
- ・「発掘!大名たちの蔵屋敷ー「天下の台所」に集う米・物・人ー」(自主企画)

【令和4年度実績】

「和菓子、いとおかしー大阪と菓子のこれまでと今ー」(自主企画)

「刀剣～古代の武といのり～」

「ー橋本コレクション受贈記念ー文明開化のやきもの印版手」(自主企画)

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長(15)

ア 令和5年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施する。

イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチ結果をもとに夜間開館における来館者ニーズを分析する。

ウ SNSなどによる夜間開館延長に関する情報発信を実施する。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 各館と連携した「大阪博」の展示(デジタル・リアル)の準備を進めるとともに、その他の共同研究の企画を模索する。

イ 文化庁等の補助金、博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

ウ 大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑み、継続して各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。

【令和4年度実績】貸出21件108点、借用資料は2件の特別企画展で約300点

イ 常設展においては文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図る。特集展示・特別展・特別企画展についても、博物館等関係機関から資料を借用し、展示内容の充実を図る。

【令和4年度実績】貸出0件0点、借用6件1,486点

【令和6年度目標】借用6件1,486点

ウ 関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得る。

【令和4年度実績】

包括連携協定：(一財)大阪市文化財協会・大阪市教育委員会

共同研究：江戸東京博物館

【令和6年度目標】

包括連携協定：(一財)大阪市文化財協会・大阪市教育委員会

共同研究：江戸東京博物館

展示協力：三田市教育委員会・三田市先哲顕彰会

エ 震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどを実施する。

【令和4年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者663人(5/11再開～3/31)

イ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議やシンポジウム等において各種活動成果の発表を行う。

【令和4年度実績】研究発表68件(国内のみ)

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

ア 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流など、韓国や中国の博物館との交流についての情報交換を行う。

イ 世界の博物館等関係機関の視察を受け入れ、博物館運営についての情報を収集する。

【令和4年度実績】視察：1件

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)

令和7年度開催予定の韓国ソウル歴史博物館による「朝鮮通信使展」に館蔵品の通信使資料を出品するための準備を行う。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

事務局と連携した広報活動を実施する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 特別展・特別企画展、特集展示及び常設展示のアンケートを実施し、その分析により有効な広報手法を模索する。

【令和4年度実績】アンケート実施 特別展・特別企画展2回、特集展示4回

【令和6年度目標】アンケート実施 特別展・特別企画展4回、特集展示6回

イ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。

【令和4年度実績】Twitter ツイート 825件

【令和6年度目標】X ツイート 600件以上

ウ 事業に応じてSNSと紐づけたWeb広告を実施し、特設のランディングページ(LP)を設け、発信力を高めるとともに実施レポートにより有効な広報ターゲット、メディアを選択する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

ア 地域の広報誌や新聞誌上等への寄稿を行い、専門情報の発信を行う。

【令和4年度実績】

日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、共同通信などに歴史・文化に関するコメント

イ 様々なメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。

【令和4年度実績】テレビ、ラジオへの出演等 全28件

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪市生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を定期的に提供する。

イ 本法人と住民学習センターが連携開催する「ミュージアム連続講座」へ講師派遣を行う。

ウ 事業協力するシニアCITYカレッジ、大阪府高齢者大学校等と連携し、講師派遣及び当館事業の広報を行う。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、データをWeb上に公開する。

【令和4年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第21号

【令和6年度目標】「大阪歴史博物館研究紀要」第22号

イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。

【令和4年度実績】

- 「共同研究報告書」「大阪歴史博物館館蔵資料集」の刊行なし
- 【令和6年度目標】「大阪歴史博物館館蔵資料集」第19号
- ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。
- 【令和4年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和3年度
- 【令和6年度目標】「大阪歴史博物館年報」令和5年度
- エ 開催する自主企画展特別展・特別企画展について、それぞれ図録・リーフレットを作成する。
- 【令和4年度実績】図録：特別展1冊、リーフレット：特別企画展3種
- 【令和6年度目標】特別展：図録1冊、特別企画展：2種
- オ 特集展示リーフレットの印刷・配布方法を見直し、ホームページでPDFを公開する。
- 【令和4年度実績】特集展示6本
- 【令和6年度目標】特集展示6本
- カ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。
- 【令和4年度実績】Twitter ツイート825件
- 【令和6年度目標】X ポスト600件以上
- キ 事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を配信する。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

- ア 事務局と連携した広報活動を実施する。
- イ 大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外サイン表示の拡充を進める。
- ウ 各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。
- エ 事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を一元的に配信する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

- ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。
- 【令和4年度実績】常設展示入場者131,844人
- 【令和6年度目標】常設展示入場者300,000人
- イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。
- 【令和4年度実績】テーマ展示2回、展示更新38回
- 【令和6年度目標】テーマ展示2回以上、展示更新30回以上
- ウ 館蔵資料及び市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。
- ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後10年記念展 5/8～7/8
 - ・新収品お披露目展 7/10～9/2

- ・新発見！なにわの考古学 2024 9/4～10/28
- ・心齋橋ときもの一小大丸 260 年のあゆみー 10/30～12/23
- ・稲作民俗事始め一米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17
- ・泉布観一大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14

エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

オ 個人端末による音声ガイド（多言語）を導入・稼働させ、展示の理解度を深める。

カ ハンズオンをイベント的に復活させる。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。観光関連事業者等と連携した広報展開を模索する。

ア 在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い誘致に努め、特別展 1 本を開催する。

「川瀬巴水一旅と郷愁の風景」観覧者数 28,200 人

イ 最寄の O s a k a M e t r o 駅構内でのポスター掲示の継続や、O s a k a M e t r o の事業への協力などを通じての広報を推進する。

【令和 4 年度実績】 O s a k a M e t r o スタンプラリー

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲） (30)

ア 令和 5 年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施する。

イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチ結果をもとに来館者ニーズを分析する。

ウ 予算の制約がある中で、コストをかけずに実施できる SNS などによる夜間開館延長に関する情報発信もあわせて行う。

5) 多言語表記や ICT の活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

ア 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

イ 展示室のネットワーク環境を活用し、個人端末による音声ガイド（多言語）を導入する。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進める。

イ 大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外デザイン表示の拡充を進める。

ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。

イ 最寄りの O s a k a M e t r o 駅構内でのポスター掲示の継続や O s a k a M e t r o の事業への協力等を通じての広報を推進する。

ウ 周辺の商業施設（もりのみやキューズモール BASE、近鉄百貨店各店など）との共同広報展開を継続する。また令和 7 年に本格化する難波宮公園整備事業との連携を深める。

エ 「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「ユニークベニ

- ユー事業」や「学び×エンタメ事業」に協力して実施することで館の魅力を向上させる。
- オ 「生きた建築ミュージアムフェスティバル（イケフェス大阪）」や「OSAKA CLASSIC」など大阪市で開催されている文化イベントの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行う。
- カ NHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、BK大感謝祭等にあわせた企画を実施する。
- キ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。
(再掲)
- ク 各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。
- ケ 民間企業と協働でイベントを企画し実行する。
【令和4年度実績】特別企画展1件、クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件
【令和6年度目標】特集展示1件、クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件
- コ 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行する。
【令和4年度実績】協力可能な民間事業者を探すため、各社にサウンディングを実施した。
【令和6年度目標】民間連携事業者と調整しながら事業の調整、実施可否判断をしながら事業を進める。

(3) 民間企業等との協働等

- 1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)
ミュージアムショップ、レストランともに「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業と共同で館の魅力向上を推進する。
- 2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)
令和5年度に選定した民間連携事業を受託した事業者の運営によるミュージアムショップで販売するグッズ選定・開発を進める。
【令和4年度実績】
独自にオリジナルグッズ8種類を開発し、ショップ及びオンラインショップで販売。
【令和6年度目標】
民間連携事業者とも連携してグッズ開発計画を立てる。
- 3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)
- ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、住民団体の要請に応える。
【令和4年度実績】特別観覧242件
- イ 資料及び関連情報を活用し、住民が館外でも楽しめる事業・サービスを民間事業者と共同で事業計画の協議を進める。
- ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

ア 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施し、それに係るワークシート等の作成を行う。

【令和4年度実績】実施件数4件、参加人数134人

【令和6年度目標】実施件数4件

イ 教員研修への協力として「教員のための博物館の日」を実施する。またワークショップの開催等を通じて、館活動の周知と教材開発への支援を行う。

【令和4年度実績】実施件数2件、参加人数47人

【令和6年度目標】実施件数2件

ウ 地元の小中学校への郷土史学習コンテンツやイベントを共同で企画し、館への参画・利用を働きかける。

【令和4年度実績】「和菓子、いとおかし」プロジェクト（2回開催）

【令和6年度目標】1回開催

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連続講座・見学会などを実施する。

【令和4年度実績】講座11回、参加人数784人、見学会2回、参加人数38人

【令和6年度目標】講座6回、参加人数350人、見学会4回、参加人数60人

イ 博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れるとともに、学校からの要望に応じて職業体験や出前授業を実施する。

【令和4年度実績】博物館実習：実施2回、参加数9大学52人、見学実習4大学、参加人数80人、中学生向け職業体験：3校6名 職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等：中学校1校、高等学校4校

【令和6年度目標】博物館実習：実施2回、参加人数40人、見学実習

中学生向け職業体験、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

ア ボランティア活動を再編・再開するとともに、自己研修として展示の見学、講座への参加を通じてボランティアスタッフの資質を高める。

【令和4年度実績】自己研修参加人数：講座142人、展示65人

イ 友の会行事への参加や講師派遣などを通じて、友の会の運営を支援する。

【令和4年度実績】友の会講師派遣4回

ウ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人等と協働事業を実施する。

【令和4年度実績】「わくわく子ども教室」1回、参加人数38人

【令和6年度目標】1回実施

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

ア 「ボランティアだより」の配信や懇談会等を通じて、ボランティアとの情報共有と意見交換を行う。

【令和4年度実績】 「たより」発行5回、懇談会1回

【令和6年度目標】 「たより」発行4回、懇談会1回

イ 友の会の総会および幹事会を通じて、友の会との意見交換を行う。

【令和4年度実績】 総会1回、幹事会13回

3) **さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励**
(41)

ア 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。

【令和4年度実績】

凧づくりと凧揚げ1回、大阪税関パネル展1回、関西考古学の日1回

【令和6年度目標】

教育活動企画 2回実施

大阪中之島美術館

(前 文)

大阪中之島美術館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットフォームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たす。

大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施する。

P F I コンセッション方式により運営する大阪中之島美術館においては、法人が運営事業者である(株)大阪中之島ミュージアムとの定期的な対話やモニタリングを通じ、相互のパートナーシップのもと大阪中之島美術館の安定的な運営を図り中之島地区をはじめとする地域の活性化や住民サービスの向上を実現し、賑わいの創出に寄与する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的人材の安定的確保及び育成 (1)

ア 館活動を支える学芸人材の確保を目指す。

イ 学芸員はもとより学芸業務にかかわる職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め参加機会を増やす。

2) 博物館等資料に関する調査研究 (2)

館蔵品に関する調査・研究を継続的に推進する。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究 (3)

館蔵品の保存状態を常に確認し、その保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究 (4)

展覧会開催時に展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査するとともに、他館の展示方法や関係研究所や展示事業者等から最新の情報の収集に努める。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価 (5)

他館に対して部分的な調査・情報収集をするほか、ブランディングやマーケティング等に関して営利団体の手法等も調査・研究の対象とする。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供 (6)

ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、美術館活動に有効な作品収集に努める。

【令和4年度実績】購入32件、寄贈等69件

イ 館蔵映像資料、紙資料のデジタル化、公開に努める。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復・額付けを行う。

【令和4年度実績】修復作品13点、額付け作品1点

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア I P Mの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的にを行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行う。

イ 貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行うこととする。

ウ 貴重資料等についても同様の処置をするものとする。

9) I C Tを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

ア 未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進める。

イ アーカイブ情報室にて、それらをデータベースへの取り込み並びに公開を行う。

【令和4年度実績】デジタル・アーカイブ化 5,180件

ウ アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

ア 利用者サービスの更なる向上を図るべく、チケット販売・受付に関するシステム・設備の更新を行う。

イ 現状の活動に沿った改良点と新たなシステムに必要な機能を洗い出し、事業者の選定を行う。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

多様な利用者の利便性の向上に資するべく、展覧会の臨時案内等の整備をについて協議を行う。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

「大阪博」の実施に向け各館と連携を図り、コンテンツの充実を目指す。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。

ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展を実施する。

館の特色を活かした特別展や、時代や社会のニーズにあった広い視点を持った特別展を実施する。

ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。

イ 海外の美術館・博物館と連携して、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

3月から5月に行われるモネ展において全日1時間の開館時間延長を行い、万博開催時の試行とする。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。

イ 中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 国内外の他館から作品・資料を借用することで、展覧会の充実を図る。

ウ 災害時の作品・資料保全のため他館の事例を参考とする。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ホールや芝生広場を使ったユニークベニューの実施に努める。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議・シンポジウムの開催に向け、国内外の美術館・美術関係者との交流を深める。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

作品の貸借を契機とした海外美術館との交流をもとにネットワークの形成・拡大を図る。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (21)

作品の状態を鑑みながら可能なものの貸し出しを行い、他館との交流の契機としていく。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

従来にも増してSNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるように発信情報等を工夫していく。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

SNSのフォロワーの増減、ツイート数などを定期的にチェックして、更なる効果的な発信に努める。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

新聞、美術雑誌、地域の広報誌、テレビ、ラジオなどで展覧会の広報を行う際は、学芸員による紹介を行うよう努め、研究成果を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 全国美術館会議の機関誌への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努める。

イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。

イ 公式ウェブサイト、YouTube サイト、Instagram などの SNS を通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。

【令和4年度実績】

Twitter ツイート数 301 回

Instagram 投稿数 88 回

YouTube 総再生回数 7,073 回

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (再掲) (27)

従来にも増して SNS を活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるように発信情報等を工夫を行う。

2) 所蔵するコレクションの魅力伝える常設展示における展示替え (再掲) (28)

ア 年間 8 本の展覧会枠の中で 2 枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ 4 階と 5 階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

ホール、芝生広場の貸し出し等と連動した展覧会を実施し、館全体で多様な利用者が楽しむことができる機会の創出を図る。

マスメディア等と連携した特別展を企画・開催する。

【令和4年度実績】

「モディリアーニ」145,766 人

「みんなのまち 大阪の肖像」

[第1期] 19,131 人

[第2期] 14,516 人

「岡本太郎」162,534 人

「すべて未知の世界へ — G U T A I 分化と統合」23,549 人

「大阪の日本画」43,339 人

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (再掲) (30)

3 月から 5 月に行われるモネ展において全日 1 時間の開館時間延長を行い、2025 年大阪・関西万博開催時の試行とする。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

施設案内等の多言語化を推進する等、外国人にもわかりやすい案内表示を行う。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」、「中之島ウエスト・エリアプロモーション」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

ア 民間事業者と展覧会に関連したオリジナルグッズを開発する。

イ レストランと連携して、展覧会に関連したメニューを開発する。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

テナントのショップ事業者と協働してミュージアムグッズの開発・販売を行う。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

ア 館蔵資料や展示物の画像データを有料又は無料で提供する。

イ 専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。

【令和4年度実績】ワークショップ 実施件数4件、参加人数122人

イ 大阪ロータリークラブの支援を受けたこどもの鑑賞教室を開催する。

【令和4年度実績】ワークショップ 実施件数1件(2日間4回)、参加人数40人

ウ 展覧会に際してこども向けワークシートを配布する。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を行う。

イ 博物館学を開講する大学の実習の受け入れを行う。

【令和4年度実績】実施なし

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

大阪で活動するアートNPOと共同でイベントを行う。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

館の運営をスムーズに行うために、テナントのカフェ及びショップ事業者との定期的に協議を実施する。

- 3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)
- ア 服飾専門学校制作発表に会場を提供する。
 - イ アニメーションフェスティバルの開催を支援する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自主的かつ自律的な組織運営

(1) 経営と運営の一元化による効果の発揮

1) 全職員に対する博物館機構の経営理念及び活動方針等への理解の促進によるガバナンス強化 (42)

ア 定例で開催される理事会や経営会議の議決事項等を、総務課長連絡会・学芸課長連絡会、グループウェアを用いて各館構成員に適宜周知・徹底し、情報の共有化を図り内部統制の強化を目指す。

イ 各会議の議事録を会議終了後に迅速に共有することで組織全体の意思一致を図る。

2) 中長期的な視点を備えた事業の企画及び実施 (43)

ア 令和7年度に実施予定の大阪博の開催に向け、経営会議での協議等を経て、広報・プロモーション活動を実施する。

イ 各館の計画的な施設整備改修に資するべく、5カ年の改修計画を策定する。

ウ PFI コンセッション方式により運営する大阪中之島美術館のこれまでの運営について検証等を行う。

エ 各館の展覧会の企画・立案について複数年度の計画の情報集約をし、各館の連携・調整を図る。

3) 各館におけるノウハウや事業成果、課題等の博物館機構全体での共有 (44)

ア 経営会議、総務課長連絡会・学芸課長連絡会議の場において、事務局及び各館から事業成果や課題を報告し、その成果やノウハウを共有する。また、グループウェアを活用することにより迅速に情報を伝達する。

イ 人流データ分析の情報を広報活動に活かすべく、事務局から他館に展開し情報の共有を図る。

4) エビデンスに基づいた戦略による事業の実施及び評価 (45)

ア 万博関係事業においては、オープンデータ並びに独自のリサーチに基づくマーケティングデータを駆使しながら広告宣伝・プロモーション戦略を組み立てる。

イ アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。

5) PFI 事業に係るモニタリングによる大阪中之島美術館の安定的な経営 (46)

ア 定期的に運営協議会（年1回）や部会（月1回）を開催し、PFI 事業者との連携を図る等、安定的な運営を行う。

イ PFI コンセッション方式によるこれまでの運営手法結果について（株）大阪中之島ミュージアムと協働して検証を行う。

ウ 4半期ごとのモニタリングに加えて適宜来館者数等の把握を行う。

6) ICTの積極的活用等による業務の効率化 (47)

ア これまでの様々なシステムの稼働状況及び利用状況を勘案し、システムの効率化及び最適化を図っていく。

イ 令和5年度に構築した館蔵品データベースのコンテンツの増加を図る。

ウ 導入した文書管理システムの活用により業務の省力化を進める。

7) より一層のサービス向上実現に向けた民間活力の導入、渉外及び広報機能の強化(48)

ア アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。(再掲)

イ プレスリリース配信サービス (PR TIMES) を採用・導入し、広報活動の規模拡大と効率向上を図る。

(2) 内部統制の強化

1) 内部統制の強化に向けた環境整備 (49)

ア コンプライアンス遵守に関する研修等を実施する。(年間1回)

イ 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。(年間1回)

ウ 個人情報保護ポリシーの見直し、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPR A等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応する。

エ 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。

オ 法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。

2) 事業継続計画 (BCP) の策定及び継続的改善 (50)

BCP計画策定に向けた調査を実施し、令和7年度以降の計画策定に繋げていく。

2 職員の育成に向けた取組 (51)

ア 階層別の研修を各階層1回は実施する。

イ 適切な人事交流を行うべく、人事方針を策定する。

ウ 広報、マーケティング、Webマーケティング等研修を企画・実行し、デジタルマーケティングへのシフトを志向する。

エ 博物館のDX化の推進に向けた研修を年間2回実施する。

オ 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて制度設計に着手する。

カ 他機関等との人事交流の策定に向け組織内で協議を進める。

キ 職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的なジョブ・ローテーションを実施する。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 収入の確保 (52)

ア 新たな収入確保に向け、新たな増収施策を実施する。

イ 各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等を行う。

ウ ユニークベニュー専門事業者と連携しながら、本法人のユニークベニュー事業のモデルケースを策定する。(例：バリューマネジメントと大阪市立自然史博物館)

2 外部資金の獲得 (53)

- ア 外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、他機関等の調査を実施する。
- イ 科学研究費補助金等の採択率の向上に資するべく、学芸連絡会議等の場を活用し成功事例の共有を図る。
- ウ 令和6年度に法人が実施する万博関係事業において、文化庁等への補助金申請を行い、採択を目指す。

3 経費の縮減 (54)

- ア 事業の効率化はもとより、契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げる。
- イ デジタル化と集約化を目指し、広報誌OSAKA MUSEUMSの発行に代わり、万博専用LPに各館展覧会・イベント等の情報を集約する。
- ウ TALK&THINKのリアルタイム配信に代わり、より視聴しやすい編集を施した動画を配信することで視聴者の満足度の向上を実現するとともに、同動画を広告宣伝ツールとしても活用する。
- エ その他オウンドメディアの目的、機能の整理を行い、スクラップアンドビルドを継続していく。
- オ 導入した文書管理システムの活用により業務の省力化を進めることで、経費の縮減を図る。

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 SDGsの理念に基づく取組の推進 (55)

- ア 被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。
- イ 建築物の大規模改修時にて、はじめて訪れる人にも理解できるサインの設置、トップランナー機器等の導入や照明器具のLED化、バリアフリートイレの設置など、SDGsの理念に基づく取組を推進する。
- ウ こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。
- エ 「リデュース・リユース・リサイクルのための法人の取組計画」に沿って環境に配慮した取組を行う。

2 来館者等の安全確保 (56)

- ア 事業継続計画（BCP）策定に向け課題の洗い出しを行う
- イ 災害時の安全確保に向けた研修等を実施する。
- ウ 各館において、隣接する機関と緊密に連携を図り、緊急時の対応に備える。

3 情報公開の推進 (57)

ア ホームページ等を積極的に活用し、情報の提供に努めるとともに、情報公開等に対しては速やかに対応していく。

イ ホームページやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信する。

ウ 令和7年度に実施予定の大阪博の情報を適宜ホームページ等にて発信する。

エ 利用者等が理解しやすいホームページの運用を行う。

【令和4年度実績】情報公開0件

第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（人件費の見積りを含む。）

2024 年度計画

（単位：百万円）

| 区分 | 金額 |
|------------|-------|
| 収入 | |
| 運営費交付金収入 | 2,874 |
| 施設整備費補助金収入 | 1,082 |
| 事業等収入 | 617 |
| 寄附金等事業収入 | 15 |
| 前期繰越金 | 1,023 |
| 計 | 5,611 |
| 支出 | |
| 業務費 | 964 |
| 一般管理費 | 1,271 |
| 人件費 | 1,261 |
| 施設整備費補助金支出 | 1,082 |
| 寄附金等事業費支出 | 10 |
| 機構戦略費 | 1,023 |
| 計 | 5,611 |

2 収支計画

2024 年度計画

(単位：百万円)

| 区分 | 金額 |
|----------|-------|
| 費用の部 | 4,312 |
| 経常費用 | 4,312 |
| 業務費 | 914 |
| 一般管理費 | 1,270 |
| 人件費 | 1,261 |
| 施設整備費補助金 | 573 |
| 寄附金等事業費 | 10 |
| 機構戦略費 | 105 |
| 減価償却費 | 179 |
| 収入の部 | 4,289 |
| 経常収益 | 4,289 |
| 運営費交付金収益 | 2,824 |
| 施設整備費補助金 | 573 |
| 事業収益 | 597 |
| 寄附金等収益 | 120 |
| 資産見返負債戻入 | 175 |
| 純損失 | ▲ 23 |
| 前期繰越金 | 23 |
| 総利益 | 0 |

3 資金計画

2024 年度計画

(単位：百万円)

| 区分 | 金額 |
|-------------|-------|
| 資金支出 | 5,616 |
| 業務活動による支出 | 4,135 |
| 投資活動による支出 | 1,476 |
| 翌年度への繰越金 | 5 |
| 資金収入 | 5,616 |
| 業務活動による収入 | 3,506 |
| 運営費交付金による収入 | 2,873 |
| 事業等による収入 | 623 |
| 寄附による収入 | 10 |
| 投資活動による収入 | 1,082 |
| 施設整備費補助金収入 | 1,082 |
| 前年度からの繰越金 | 1,028 |

第6 短期借入金の限度額

1 限度額

5億円

2 想定される短期借入金の発生事由

運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。

第7 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

なし

第8 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した場合、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営並びに財務及び会計に関する事項

1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画

前中期目標期間繰越積立金については、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

(1) 人事に関する計画

第1「1（1）ア 専門的人材及び各種活動の充実」に記載のとおり。

第2「2 職員の育成に向けた取組」に記載のとおり。

(2) 施設及び設備に関する計画

長期的な展望に立った計画的な施設設備の整備を行うとともに、施設の老朽化の程度を勘案しつつ、下記のとおり計画に従った整備を推進する。

| 施設・設備の内容 | 予定額（百万円） | 財源 |
|--|----------|----------|
| ・ 消防関係設備更新 ・ 空調関係設備更新 ・ 電気関係設備更新 ・ 中央監視装置整備 ・ 各所施設整備 | 1,082 | 施設整備費補助金 |